

巻頭言

*

退職して1年



向井秀樹

時の流れは早いもので、昨年3月に東邦大学を退職して1年が過ぎました。教授就任時も東邦大学関係者と北里大学関係者を別にして2つの祝賀会を、そして今回退職時も同様に2つの祝賀会を開催して頂きました。

3月26日（土曜日）、新横浜プリンスホテルでの退任記念祝賀会に北里大学関係の恩師や同門会員と共に、長年お世話下さった神皮の先生方にも多数ご出席を頂きました。温かいご祝辞を頂いた鎌田英明会長をはじめ、池澤善郎、栗原誠一、富澤尊儀、増田智栄子、川口博史、毛利忍、野村有子先生など多数の先生方に労いやお祝いのお言葉を頂戴しました。司会の労を取ってくれた齊藤典充先生に心から感謝申し上げます。皆様のお陰で思い出に残る素晴らしい祝賀会になりました。

母校北里大学で医師として教育して頂き、平成3年に新設の横浜労災病院初代部長に赴任。以来17年間は私にとって最も頑張った時期であり、多くの優秀な北里関連の医師に支えられました。5～7名程度のスタッフで、200人の外来患者と25人以上の入院患者を診察。開院当時はアトピー性皮膚炎の治療混乱期です。マスコミやメディアを巻き込んだステロイドバッシングによりステロイド忌避患者が氾濫、アトピー患者の急増、とくに重症例が多く、アトピー治療が最も注目された時代です。全国各地からの多くの患者を診察する機会に恵まれ、重症な患者は入院療法を行いました。

平成10年から西山茂夫先生の特別講演を柱にして、日頃お世話になっている近隣の先生方との病診連携の会を浅井俊弥先生と立ち上げ、新横浜のホテルで開催しました。昨年のご記念すべき第50回例会まで西山先生のご講演を拝聴し、大いに勉強になりましたし、明日からの診療に役立つものでした。長年のご指導に弟子一同を代表して、心から感謝申し上げ

げます。ご紹介頂いた患者さんの経過や結果を報告し、懇親会では親睦を図りました。多くの貴重な症例に恵まれ、東京地方会ばかりでなく全国の学会活動や論文作成を行いました。日頃多忙と称し、依頼原稿は締切日から書き始め、編集部を確認した最終締切日に何とか投稿しました。この綱渡り現象は東邦大学に赴任後は全く姿を消しました。時に羽目を外して、新横浜から横浜中華街や横浜市内などを飲み歩きました。当時MRの接待が多く、スタッフと楽しい時間を共有しました。ゴルフコンペやボウリング大会で日頃の疲れを発散しました。

平成4年から神皮の幹事、そして横浜市皮膚科医会の常任幹事に指名され、神皮の仲間入りをさせて頂きました。勤務医や診療所の垣根を超えて、他大学出身の先生方と気さくに話をする機会が得られ勉強になりました。平成9年には神奈川県皮膚科医会第94回例会を主催させて頂きました。テーマは勿論、私の専門とするアトピー性皮膚炎の治療法でした。平成12年から神皮の常任幹事、そして横浜市皮膚科医会の副幹事長になり、活動の幅が広がりました。当時、原紀道会長が“神皮から情報を発信しよう”と立ち上げた事業の一環として、皮膚病サーベイランスを企画しました。多くの議論の末、皮膚感染症をターゲットにして、毎年、夏と冬の1週間で受診した患者数の調査を協力医にお願いして行い、その結果を日臨皮や会報に報告しました。アンケート調査も幾つか実施しました。神皮は自由な発想を尊び、新しい学問を追究し、綿密な計画性を持って活動する最高の医会です。ホットな情報や興味深い講演を取り上げるので、神奈川県以外の会員も少なくありません。神皮の良き伝統を守り、時代の流れをしっかりと捉え、会員の知識向上に役立つ自慢の神皮、今後益々のご発展を願っております。

(東邦大学)